

岐阜県初のモモ新品种 『飛驒おとめ』

育成の背景

- ・岐阜県初のオリジナル品種がほしい
- ・基幹品種の「白鳳」と「昭和白桃」をつなぐ品種がほしい

育成経過

- ・平成10年 「川中島白桃」に「やまなし白鳳」を交配
- ・平成11年 播種(387種子)
- ・平成15年 一次選抜で6個体に絞り込む
- ・平成18年 二次選抜で1個体に絞り込み、系統名を「飛系モモ1号」として現地試験を開始
- ・平成23年 有望と判断し育成を完了
- ・平成24年 品種登録出願(11月22日、第27603号)
- ・平成25年 品種登録(12月16日、第22894号)



外観が良く食味も良好

新品种の特徴

- ・「白鳳」と「昭和白桃」の中間時期に収穫でき、両品種の端境期を埋めることができる。
- ・大玉で玉揃いがよく、着色も良好で、果実の外観が非常に優れる。
- ・果実糖度が16.4%と高く、食味良好である。
- ・核割れ果、ミツ症果、生理落果などの障害果の発生が少ない。

8/1

8/5

8/10

8/15

8/20

8/25

9/1

9/5

盆前需要期

白鳳の出荷期

端境期

昭和白桃の出荷期

飛驒おとめ



普及見込みと導入効果

- ・飛驒地域を中心に当面は5ha程度の普及が見込まれる。
- ・温暖化で熟期が前進しても盆前出荷量を確保でき、市場や消費者からの需要に応えられる。
- ・商品果率の向上と連続出荷体系の構築により、モモ農家の所得向上が図られる。
- ・「飛驒桃」のブランド強化と産地発展に大きく寄与する。